

学校運営計画（4月）		評価（3月）			
学校運営方針	<p>【基本方針】 本校教育の根幹を成す「世のため、人のため」の精神のもと、社会の変化や生徒の実態に迅速に対応できる機動的な体制を確立し、開かれた学校づくりを推進する。</p> <p>【長期目標】 1 社会的な視座に立つ教育活動を展開することにより、世界の現実を直視し、自己の使命を果たそうとする高い志と国際的素養を持った生徒を育成する。 2 後世に優れた精神文化を継承していく使命と責任を自覚し、知性と感性が調和した人間力豊かで実践的行動力を身に付けた生徒を育成する。 3 内面的自覚を促し、節度ある生活の中で礼儀と倫理観を育てるとともに、主体的に行動し自らの責任を果たす生徒の育成を推進する。 4 ICT教育の充実により情報機器を活用し、論理的思考力や科学的思考力を更に伸長させ、学ぶ喜びと厳しさを体得させる厳格で活力ある授業を定着させる。 5 学校行事や生徒会活動等における生徒の自治的・協働的な活動をととして、豊かな人間性と創造力、自己教育力、リーダーシップ、自浄力を育成し、社会が求める総合的な人間教育を推進する。 6 前期の区切りとしての「大運動会」と後期の区切り及び学年の総仕上げとしての「大文化祭」の二大学校行事を中心とした学校暦の充実を図る。 7 生徒の現状に即した諸支援を充実させ、「人間の在り方・生き方」を見つめる教育を推進する。</p>	A			
	<p>昨年度の成果と課題</p> <p>継承されてきた本校独自の教育活動の実践で、学力の伸長及び部活動等の実績は評価できるとともに、行事等における自治的・主体的活動や協働をととして個性の伸長と人間的な成長もみられた。 今後は、主体的・対話的で深い学びの実現に向け、「習得」に止まらず「活用」「探究」の場となるような授業改善を推進するとともに、カリキュラムマネジメントや評価方法等の検討・構築を行う。また、全人教育をさらに推進し、生徒が高い志と国際的素養を身に付けた有為な社会の構成員として活躍できるよう人材育成に努めたい。</p>				
	<p>年度重点目標</p> <p>1 授業等の改善・充実 2 豊かな人間性と実践力の育成 3 教師としての資質・能力の向上</p>	<p>具体的目標</p> <p>(1) 校種間の接続（中高及び高大の接続）を意識した授業を展開し、知識・技能の習得とその活用を内包する授業を展開する。 (2) 教育活動全体をととして、自他の個性を理解し、主体的に進路を選択できる能力・態度を育む教育を実践する。 (3) 二学期制の特色を生かした修猷館暦のもと、生徒の多様な資質・能力を伸ばす柔軟で効果的な教育の方法、システムの研究を推進する。 (1) 学校行事の意義について学校全体でそれを共有することで、「世のため、人のため」という言葉に凝縮される本校の全人教育を充実させる。 (2) 授業や特別活動等における交流、言語活動の充実をととして人間力を高め、グローバルリーダーに相応しい態度と実践力を育成する。 (3) 陰日向のない「独りを慎む」ことができる生徒を育成する。 (1) 教師一人ひとりの言動が「隠れたカリキュラム」としての学校文化を醸成するという自覚を持ち、自ら進んで研究と修養に努め、教養を高める。 (2) 健康の維持・増進を図り、幅広く知識と経験の習得に努め、専門性の向上を図る。 (3) 「確かな学力」の育成を目指し、アクティブ・ラーニングの手法も含めた授業や教材及び評価方法等の研究・開発・蓄積に努め、共有化を図る。</p>			
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価（3月）	次年度の主な課題	
教務部	教務課	1 修猷の不易と二学期制を活かし、生徒個々の資質・能力を伸長する。	(1) 各授業や特別活動において「主体的・対話的で深い学び」を実践する。 (2) 評価の観点を知り、調査以外の学習活動の評価法を検討する。	A A	A ・ 考査実施回数の変更により年間行事が大きく変化することが予想される。 ・ 3年生を中心に教育課程の部分的変更が実施されるので、環境整備に努めたい。 ・ ICTに対応した環境整備と業務効率化のための表簿の電子データ化については、特に改善の声が強いので検討を重ねたい。
		2 通常業務の精度向上と効率化を行い、教育活動へ還元する。	(1) 責任者を中心に複数体制で業務に当たり、精度を向上させる。 (2) 生徒状況報告書の活用と学年・他分掌との連携により生徒把握と早期対応を行う。	A A	
		3 修猷総合カリキュラムを再構築する。	(1) 次期学習指導要領・大学入試制度を見据えたカリキュラムを検討する。	A A	
	庶務課	1 円滑な教育活動のための校内の条件整備を充実させる。	(1) 生徒用机・椅子をはじめ、校内備品の現状についての情報収集を積極的に行う。 (2) 生徒会庶務委員会活動をより活性化し、生徒が教室整備等に主体的に関わるようにする。	A A	A ・ 生徒の教室備品等の取り扱いに粗雑な面が見られ、破損も目立つため、物品に対する適切な取り扱い、公共物を大切にすることの涵養などを意識的に行っていく。 ・ 老朽化した備品の廃棄に関する処分方法や時期、粗大ゴミ置き場の設置について、継続的に検討し、対処していく。
		2 儀式的行事を円滑に企画運営する。	(1) 儀式行事に対して早期に計画立案に取り組み、円滑な儀式運営に寄与する。	B B	
		3 PTA・同窓会との連携、信頼関係を維持・発展する。	(1) PTA・同窓会組織との連絡調整を行うとともに、両組織の運営に協力する。 (2) 広報活動の充実などを通じて、PTA・同窓会との連携をさらに増進させる。	A A	
生徒部	生徒支援課	1 礼儀と倫理観を育てることにより、主体的に行動し自己責任を果たす生徒を育成する。	(1) 交通安全教室・防災教育などにより安全意識と危機管理能力を向上させる。 (2) 基本的生活習慣を確立させる。いじめを許さない精神と行動力を育む。 (3) 交通マナー・スマートフォンの利用等で、正しい行動規範を身につけさせる。	A B B	A ・ 防災教育については、回数・時期・内容について再検討する。 ・ マナーアップ集会については、内容の精選や時期の変更でより効果を上げることができたが、年度当初の交通安全に対する意識向上をさらに高める必要がある。 ・ 生徒会活動活性化に関して、適切な援助を考慮する。 ・ スクールサポーターなど外部の専門機関との連携をさらに進める。 ・ 情報共有をはじめ、全職員で生徒支援にあたるという意識を再認識する。
		2 生徒の自治的・協働的な活動をととして、豊かな人間性とリーダーシップを育成する。	(1) 学校行事における交流、言語活動の充実をととして、人間力を高める。 (2) 生徒会活動の活性化をととして、リーダーに相応しい態度と実践力を育成する。 (3) よりよい学校文化の創造者としての自覚と行動力を育む。	A B A	
		3 社会の変化や生徒の実態に即した諸支援を充実させる。	(1) 衛生的管理や安全指導、健康相談・啓発活動を行う。保健委員会を活性化させる。 (2) 個別の生徒支援的な事案については、学年・分掌が連携し、組織的な支援を行う。 (3) 校外の研修会に積極的に参加し、情報を共有し、指導を効果的に行う。	B A A	

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価（3月）		次年度の主な課題		
生徒部	文化・体育課	1 部活動を通して、「たくましく生きる力」を持った心身共に健康な生徒を育成する。	(1) チャンピオンシップを目指すとともに、スーパーリーダーを育成する。	B	A	・文武両道の精神を継承していくために、各教科・学年との連携を密にしながら、部活動と勉学のバランスを図っていく。 ・全体的に大胆な発想と行動力を持った生徒が年々減ってきているため、大運動会や大文化祭を通して「失敗と成功」から学ぶ体験を多くもたせる。		
			(2) 学校生活全般（学業、生活面等）の指導を、学年・分掌等連携して行う。	A				
			(3) 健康面、安全面への指導を継続して行う。	A				
		2 感動ある、感動できる『大運動会』を目指す。	(1) 全員が積極的に参加できるよう、生徒と教師の協力態勢を万全のものとする。	B	A			
			(2) 安全性と効率性を考えた競技内容や組織へと改善する。	A				
			(3) 講習会等を実施し、リーダーシップとフォロワーシップの育成を計画的に行う。	A				
		3 『大文化祭』を当該学年の集大成と位置づけ、新たな発想を取り入れた修猷文化の発信を目指す。	(1) 自治的活動を通して、リーダーシップと自浄する力を育成する。	B	A			
			(2) 折衝・企画検討会を充実させ、質の高い発表を目指す。	A				
			(3) 早い段階から学年と連携し、適切な指導を通して、準備活動を支援していく。	A				
進路部	進路支援課	1 進路行事を通して進路情報を発信し、高い志を醸成する。	(1) 進路説明会等を通して、向上心・自尊心を高め広い視野を持たせ、高い志を養う。	B	A	・補習・課外について、より効果的なものとするために様々な事例を研究し、検討する。 ・再来年度から実施される新テストにむけて、詳細が発表された段階で、3年間を見通した進路支援計画を作成する。		
			(2) 進路シラバスや進路の手びきを活用させ、各生徒の進路に対する意識を高める。	A				
		2 模擬試験等の結果分析やデータの蓄積を行い、より良い進路指導へと繋げる。	(1) 校内実力考査・校外模試を十分に活用し、進路目標を構築させる。	A			B	
			(2) 進路環境の変化に対応した、補習・課外、模試等の内容・枠組みを研究する。	B				
		3 他の部や学年と密接に連携をとりキャリア教育の推進を図る。	(1) 卒業生キャリアセミナー、出前授業等を通して、キャリアデザインを意識させる。	A			A	
			(2) 卒業生体験発表会、東大講演会等の講演会を催し、進路意識の向上に繋げる。	A				
	広報課	1 インターネットや映像など様々な手段で本校の教育方針と教育活動を発信する。	(1) 各分掌・学年と協力体制を構築し、ホームページを迅速かつ効果的に制作する。	B	A		・来年度からの、各分掌によるホームページの情報のアップロードにむけて、その準備として担当職員の養成を行う。 ・小学生ふれあい事業の受け入れ人数が上限に近づいているため、発展的に再編成することを検討する。	
			(2) 質の高いパンフレット、学校紹介DVDを活用し、本校の魅力を多くの人に伝える。	A				
		2 学区内の小中学生、保護者が本校を訪れる機会を設け、本校の魅力を伝える。	(1) 小学生ふれあい事業、中学生体験入学を効果的に行なう。	A				A
(2) 学区内の高校と連携して「中学生のための進路相談事業」を実施する。			A					
3 学区内の中学校と連絡を密にし、相互理解に努める。		(1) 年度初めに各中学校を訪問し、情報交換を行う。	B	A				
		(2) 中学校への出前授業、PTAの訪問等、本校を紹介する機会を十分に活用する。	A					
教養部	研究支援課	1 「確かな学力」を育成する授業のための教科研修を実施する。	(1) 授業の充実と資する研鑽の機会として、研究授業、相互授業参観等を活用する。	B	B	・本校の今日的な課題を校内からすくい上げ、共有するための職員研修を企画する。 ・課題研究では、研究テーマの提案、研究活動、発表会を通じて、生徒主体の運営を発展させる。 ・出前授業では、例年と異なる他の行事のスケジュールとの調整を的確に行い、滞りない運営を行う。 ・業務の安定運営のため、業務内容の組織的把握や、複数担当者で分担できる態勢を整える。		
			(2) 新設の「年間聴講制度」の円滑な運営と成果の共有に努める。	A				
		2 教師の資質・能力の向上に繋がる職員研修の企画運営を推進する。	(1) 生徒の実態や本校の現状を踏まえた職員研修、人権研修を企画し、実施する。	A				A
			(2) 研究紀要や校誌等の刊行について、編集過程を含めた充実と努め、活用を推進する。	A				
		3 教育研究活動の充実を図る。	(1) 本校の教育活動を俯瞰するための教育研究・調査を、継続的に実施する。	A			A	
			(2) 各教科・各分掌等による教育研究を支援するという分掌機能を充実させる。	B				
	4 総合的な学習の時間の運営支援を実施する。	(1) 自主的・協働的な活動を通じた自己教育力・相互教育力育成の機会とする。	A	A				
		(2) 出前授業/卒業生キャリアセミナー等における外部との連携を充実させる。	A					
	図書課	1 読書習慣を通し感性や論理的思考力・表現力等豊かな人間性を培う。	(1) 朝読書を軸とする充実した読書活動を、学校全体の取り組みとして推進する。	B	A		・クラス読書での複本の活用をはじめ、朝読書の充実に向けた取り組みを推進する。 ・広報誌・壁新聞による読書啓発活動、秋の図書館祭り(菁莪祭)の企画運営、他校図書委員との交流・読書会の実施等、生徒図書委員による活発な読書推進活動を支援する。 ・図書閲覧室や視聴覚設備の活用促進及び修猷資料館の一般公開における、学年・他分掌との連携促進と適切な管理運営に努める。	
			(2) クラス読書や移動図書館、図書館オリ等の取組では学年・他分掌と連携する。	A				
		2 図書委員の自主的活動を支援し、図書館の活動の活性化を図る。	(1) 図書委員による日々の業務の遂行、及び他校との交流活動を支援する。	A				A
			(2) 朝読書・菁莪祭・図書館報・広報スペースを一層充実させる。	A				
3 情報/メディアセンターとしての図書館機能を充実させ、メディアリテラシーの向上に資する。		(1) 各教科と連携し授業関連の情報・図書の提供を充実させる。	A	A				
		(2) 図書館のマルチメディア化と学校発行文書の電子化・図書館での保存を推進する。	B					
	(3) 菁莪記念館(1F・3F)の視聴覚設備や修猷資料館について適切な管理運営を行う。	A						